

◎国選択指定
伝統芸能
『横山盆踊』

上西だより

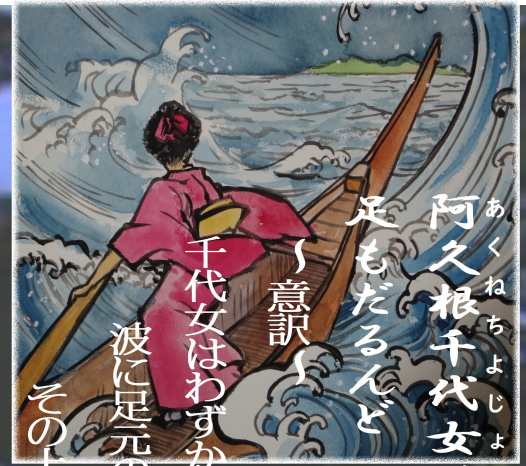
～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

毎年七月に演じられる『横山盆踊』は、次のエピソードで知られています。

江戸時代の初め、種子島に遠島になった比志島國隆を慕って愛妾千代女は阿久根から坊津へ。坊津から小舟に棹差して、愛しい人のところをめざします。（歌詞の一節と挿絵→）

國隆への熱い想いが冬の海を一気に越えたのです。無事、上西横山で二人は再会を果たします。しかし運命は、二人を過酷な結末へと導くことになるのです。



阿久根千代女は夜舟漕ぐ
足もたるんど手もたるんど
まして夜風も寒かるど
千代女はわずかにおさまった波を見て舟を出した。身ひとつで。
波に足元の舟は揺れる。櫂を漕ぐ手は痛む。
その上、冬の夜風は強く冷たく、体の芯まで冷えてくる。



写真は楽器と衣装



鼓（つづみ）↑



太鼓↑



鉦（かね）↑



男踊りの衣装
と七夕飾り↑

女踊りの衣装↑

現代風の盆踊りを想像してはなりません。室町時代に京都から伝わる古式ゆかしい踊りで、振付はきわめて静かで荘重です。歌詞はかけ言葉など優れた表現方法が見られます。

二人が過ごした横山での暮らしの果ては、國隆の切腹と千代女の殉死で幕を閉じます。この事件を歌詞の中に編んで『横山盆踊』は哀しくも美しい芸能へと昇華されたのです。

南種子町西之本国寺盆踊りと双璧をなす『横山盆踊』は、このように独自の変化を経て現在に至っています。

（今年の『横山盆踊』は実施できなくなりました。）